

当地区で行った在宅訪問歯科診療に対する歯科衛生士の意識調査

高田 靖¹⁾・中村 全宏²⁾・中島 陽州¹⁾
柳澤 達雄¹⁾・山岸 春美³⁾

1) 社団法人・東京都豊島区歯科医師会, 2) 東京都立東部療育センター, 3) 豊島区口腔保健センター・「あぜりあ歯科診療所」

緒言

超高齢社会になり、要介護高齢者は増加傾向にあるが、地域での在宅訪問歯科診療および口腔ケアのニーズが高まる中でそれを担う歯科衛生士については人材不足であるのが現状である。そこで、東京都豊島区歯科医師会では平成20年2月に訪問診療に携わる歯科衛生士育成を目的とした「在宅高齢者歯科訪問診療・歯科衛生士研修会」を開催した。今回、この研修会を修了した参加者に在宅訪問歯科診療に関する意識調査を実施し、加えて同じく介護老人施設訪問歯科診療の臨地実習を行った歯科衛生士専門学校生との意識調査との比較・検討を行ったので報告する。

対象と方法

当地区で行った「在宅高齢者歯科訪問診療・歯科衛生士研修会」(講義4回,現場実習1回)をすべて履修した歯科衛生士25名についてアンケート調査を行い、同じ内容で介護老人施設訪問歯科診療の臨地実習を行った歯科衛生士専門学校生に実施したアンケート調査結果との比較・検討を行った。

結果

アンケート項目ごとの結果を以下の表に示した。

高齢者との関わり

あり	22
なし	2
回答なし	1

一般歯科診療との相違

思う	17
やや思う	6
あまり思わない	2
思わない	0

相違の理由

器材	0
コミュニケーション	2
診療内容	5
患者状態	16
無回答	2

高齢者への対応

声かけ	10
知識	2
迅速さ	0
患者情報	12
無回答	1

カンファレンスの必要性

思う	21
やや思う	4
あまり思わない	0
思わない	0

認知症KRへの対応の困難さ

思う	13
やや思う	9
あまり思わない	2
思わない	0
無回答	1

実習時間

短い	1
適切	14
長い	2
無回答	8

施設職員との連携

思う	23
やや思う	1
あまり思わない	0
思わない	0
無回答	1

高齢者の口腔ケアにDHの必要性

思う	23
やや思う	1
あまり思わない	0
思わない	0
無回答	1

今後高齢者口腔ケアに携わりたいか

思う	16
やや思う	8
あまり思わない	0
思わない	0
無回答	1

参加者は歯科衛生士としてのキャリアもある程度あることから高齢者への関わりや他職種との連携に理解があり、高齢者への口腔ケアに歯科衛生士の必要性も感じ、自らも口腔ケアに積極的に関わろうとする意欲がみられる。同じアンケート調査を行った学生の場合では必要性を認めつつも現場体験がないことから高齢者への口腔ケアについては消極的な回答であった。

考察

在宅訪問歯科診療に関する研修会は様々なものが開催されているが実際に患者宅や介護施設への現場実習を含んだものは稀である。対象者が高齢で全身状態も良くないことから診療予定を立てることも難しい。そのため、居宅と施設をうまく組み合わせることにより効率よく現場実習を実施することが可能となった。センターの機能として来院患者のみを治療するのではなく在宅や施設への訪問診療など地域へ出て行く拠点として活用できれば歯科衛生士がキャリアアップできる拠点としてもセンターを活用することも確認された。

結論

今後、センターの担う役割としては障害者歯科診療、訪問診療や介護分野での拠点としてだけでなく、人材育成や地域ネットワークづくりの機能を持たせることも必要である。

当地区で行った在宅訪問歯科診療に対する 歯科衛生士の意識調査

高田 靖¹⁾・中村 全宏²⁾・中島 陽州¹⁾・柳澤 達雄¹⁾・山岸 春美³⁾

¹⁾社団法人・東京都豊島区歯科医師会, ²⁾東京都立東部療育センター,
³⁾豊島区口腔保健センター・「あぜりあ歯科診療所」

【緒 言】

- 超高齢社会になり、要介護高齢者は増加傾向にあるが、地域での在宅訪問歯科診療および口腔ケアのニーズが高まる中でそれを担う歯科衛生士については人材不足であるのが現状である。そこで、東京都豊島区歯科医師会では平成20年2月に訪問診療に携わる歯科衛生士育成を目的とした「在宅高齢者歯科訪問診療・歯科衛生士研修会」を開催した。今回、この研修会を修了した参加者に在宅訪問歯科診療に関する意識調査を実施し、加えて同じく介護老人施設訪問歯科診療の臨地実習を行った歯科衛生士専門学校生との意識調査との比較・検討を行ったので報告する。

【対象と方法】

- 当地区で行った「在宅高齢者歯科訪問診療・歯科衛生士研修会」(講義4回,現場実習1回)をすべて履修した歯科衛生士25名についてアンケート調査を行い、同じ内容で介護老人施設訪問歯科診療の臨地実習を行った歯科衛生士専門学校生2年生69名に実施したアンケート調査結果との比較・検討を行った。

【実習カリキュラム】

- ・行動目標として「訪問歯科診療の現場で起こる実際の事例を理解し歯科衛生士として対処できる能力を身につける」とし、座学での講義を4回、現場実習として1日「あぜりあ歯科診療所」の業務に従事する。
- ・有資格者であるので直接、患者へのケアにも携わってもらいその後の帳票類の記載等もする。

< 実習内容 >

1. 歯科医師・歯科衛生士による講義(4回シリーズ)
 - 1回:「高齢者診療における身体的留意点」
 - 2回:「在宅訪問診療の実際」
 - 3回:「認知症高齢者への対応」
 - 4回:「在宅訪問歯科診療のマネジメント」
2. 「あぜりあ歯科診療所」での現場実習(午前:9:00~17:00)

< 実習のポイント >

1. 訪問歯科診療での手順・術式・補助における注意事項を理解する
2. 高齢者への声かけ・コミュニケーション等の対応方法を学習する
3. 診療に応じた準備・片付けを身につける
4. 事前事後カンファレンスの内容を把握する

【現場実習当日の流れ】

9:00 ~

事前カンファレンス

当日対象者の全身状態

主訴と処置内容

口腔ケアの留意点

高齢者への対応の注意点



9:20 ~

器具・機材の準備および点検



9:30 センター出発



10:00 ~

診療および口腔ケアの実習

家族、施設看職員との体調確認

器具・機材準備

診療および口腔ケア実習

家族、施設職員への送り

後片付け

16:20 ~

事後カンファレンス

診療内容

診療・口腔ケア時の注意点

質疑応答

16:40 ~

器具の洗浄・消毒滅菌

帳票類記載



在宅訪問診療



施設訪問診療



居宅療養管理指導



介護予防事業

【アンケート結果】

高齢者との関わり

	歯科衛生士	学生
あり	88%	77%
なし	8%	23%
回答なし	4%	0%

一般歯科診療との相違

	歯科衛生士	学生
思う	68%	83%
やや思う	24%	13%
あまり思わない	8%	4%
思わない	0%	0%

相違の理由

	歯科衛生士	学生
器材	0%	10%
コミュニケーション	8%	17%
診療内容	20%	19%
患者状態	64%	53%
無回答	8%	1%

高齢者への対応

	歯科衛生士	学生
声かけ	40%	46%
知識	8%	20%
迅速さ	0%	6%
患者情報	48%	28%
無回答	4%	0%

カンファレンスの必要性

歯科衛生士 学生

思う	84%	99%
やや思う	16%	1%
あまり思わない	0%	0%
思わない	0%	0%

実習時間

歯科衛生士 学生

短い	4%	36%
適切	56%	64%
長い	8%	0%
無回答	32%	0%

認知症 K R への対応の困難さ

歯科衛生士 学生

思う	52%	57%
やや思う	36%	33%
あまり思わない	8%	10%
思わない	0%	0%
無回答	4%	0%

施設職員との連携

歯科衛生士 学生

思う	92%	98%
やや思う	4%	1%
あまり思わない	0%	0%
思わない	0%	0%
無回答	4%	1%

高齢者の口腔ケアに D H の必要性

歯科衛生士 学生

思う	92%	98%
やや思う	4%	1%
あまり思わない	0%	0%
思わない	0%	0%
無回答	4%	1%

今後高齢者口腔ケアに携わりたいか

歯科衛生士 学生

思う	64%	25%
やや思う	32%	65%
あまり思わない	0%	10%
思わない	0%	0%
無回答	4%	0%

- 参加者は歯科衛生士としてのキャリアもある程度あることから高齢者への関わりや他職種との連携に理解があり、高齢者への口腔ケアに歯科衛生士の必要性も感じ、自らも口腔ケアに積極的に関わろうとする意欲がみられる。同じアンケート調査を行った学生の場合では必要性を認めつつも現場体験がないことから高齢者への口腔ケアについては消極的な回答であった。

- 参加者の声

- ・ 歯科の知識もさることながら全身状態の把握、心理の知識等多くの勉強をしなければ高齢者と関わることは難しいと感じました。まる1日をかけての実地研修は勉強になりました。
- ・ 緊急時にどういう対応が必要なのかなどは事前に勉強しておくことが大切だと思いました。
- ・ 一般診療しか携わってこなかった者にとって、なかなか踏み込むのに勇気が必要だなと感じました。
- ・ いろんな歯科業務があるということを改めて感じました。書類等も多いですね。

etc .

【考 察】

在宅訪問歯科診療に関する研修会は様々なものが開催されているが実際に患者宅や介護施設への現場実習を含んだものは稀である。対象者が高齢で全身状態も良くないことから診療予定を立てることも難しい。そのため、居宅と施設をうまく組み合わせることにより効率よく現場実習を実施することが可能となった。

また、訪問診療だけでなく介護予防事業や報告書等の帳票類の記載方法なども体験することができた。

センターの機能として来院患者のみを治療するのではなく在宅や施設への訪問診療など地域へ出て行く拠点として活用できれば歯科衛生士がキャリアアップできる拠点としてもセンターを活用できることも確認された。

【結 論】

今後、センターの担う役割としては障害者歯科診療、訪問診療や介護分野での拠点としてだけでなく、人材育成や地域の一般歯科医院に勤務している歯科衛生士が積極的に参加できるネットワークづくりの機能を持たせることも必要である。今後も継続して当地区ではこのような研修会を実施していく予定である。